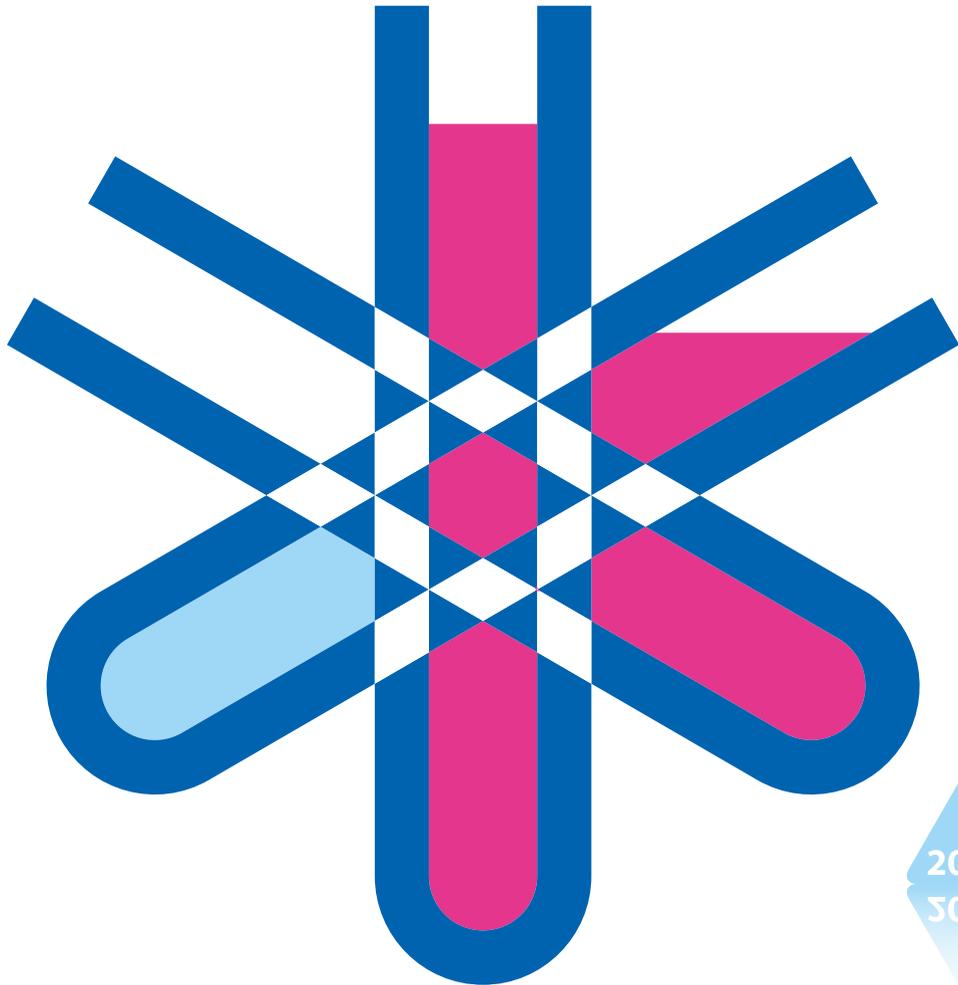


# 横查情報月報



横浜市衛生研究所

# 令和8年2月号 目次

## 【検査結果】

年末食品収去検査結果（令和7年度） .....	1
食品中のアフラトキシン検査結果（令和7年度） .....	4
食品中の動物用医薬品検査結果（令和7年11月～12月） .....	5

## 【情報提供】

衛生研究所ウェブページ情報（令和8年1月） .....	7
-----------------------------	---

## 【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査報告*（令和8年1月） .....	8
----------------------------	---

\* この記事では主に、医療機関向けの情報を提供しています。

感染症発生動向調査は感染症法に基づく国の事業です。本事業に関する詳細は、「感染症発生動向調査とは」（下記URL）をご参照ください。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo-fukushi/eiken/kansen-center/doko/systemgaiyo.html>

# 年末食品収去検査結果(令和7年度)

年末食品等一斉点検事業は、厚生労働省から出された通知に基づき、食品流通量が増加する年末の食中毒等の事故防止と食品衛生の確保を目的として全国一斉に実施されるものです。

本市においては、令和7年11月4日から12月26日までを重点監視期間と定め、一斉点検を行いました。期間内に医療局食品専門監視班と福祉保健センターが収去し、搬入された検体について、当所が行った検査の結果について報告します。

## 1 食品添加物検査

搬入された菓子類やかん詰・びん詰食品など131検体(輸入品120検体、国産品11検体)の食品について、保存料、着色料、酸化防止剤など2,584項目の検査を実施しました(表1)。

輸入された食品から、菓子には使用が認められていない保存料が検出されました。収去担当部門で輸入者等を所管する自治体に調査を依頼しています。

また、保存料を検出した検体や酸化防止剤が不検出となった検体等13検体についても収去担当部門が輸入者等を所管する自治体に調査を依頼しています。

表1 食品添加物検査

令和7年11月～12月

食品区分	検 体 数	項 目 数	検査項目					
			保 存 料	着 色 料	甘 味 料	酸 化 防 止 剤	漂 白 剤	発 色 剤
穀類及びその加工品	7	164	27	119	-	18	-	-
野菜類・果物及びその加工品	9	161	31	102	22	6	-	-
菓子類	45	881	78	615	96	92	-	-
清涼飲料水	8	202	60	119	21	2	-	-
酒精飲料	10	216	31	153	23	9	-	-
乳製品	6	131	25	102	4	-	-	-
かん詰・びん詰食品	24	345	67	204	41	30	2	1
その他の食品	22	484	57	357	35	35	-	-
合 計	131	2,584	376	1,771	242	192	2	1

【 理化学検査研究課 食品添加物担当 】

## 2 細菌検査

規格基準<sup>\*1</sup>検査の内訳は、冷凍食品16検体、肉卵類及びその加工品5検体、ナチュラルチーズ7検体、ミネラルウォーター2検体、容器包装詰加圧加熱殺菌食品9検体、牛乳6検体、計45検体80項目でした。検査の結果、規格基準違反はありませんでした(表2)。

また、細菌の成分規格のない漬物3検体、菓子類12検体、その他の食品1検体は、旧衛生規範<sup>\*2</sup>の項目について検査を実施しました。ふきとり5検体は独自項目について検査を実施しました(表3)。

\*1 規格基準とは、食品及び添加物について食品衛生法第11条により基準、規格を定めたもののことです。

\*2 旧衛生規範とは、弁当、そうざい、漬物、洋生菓子及び生めん類について定められた衛生的な取り扱い等の指針のことです。食品衛生法の改正に伴い令和3年6月1日廃止されました。

横浜市では現在、食品営業者への衛生指導のための参考値として、衛生規範で示された数値を使用しています。

食品区分	検査 検体数	検査 項目数	違反 検体数
冷凍食品			
無加熱摂取冷凍食品	9	18	0
凍結直前に加熱された加熱後摂取冷凍食品	2	4	0
凍結直前未加熱の加熱後摂取冷凍食品	5	10	0
肉卵類及びその加工品			
非加熱食肉製品	1	3	0
鶏卵	4	4	0
乳製品			
ナチュラルチーズ(ソフト及びセミハードに限る)	7	7	0
清涼飲料水			
ミネラルウォーター(殺菌又は除菌有)	1	1	0
ミネラルウォーター(殺菌又は除菌無)	1	3	0
その他の食品			
容器包装詰加圧加熱殺菌食品	9	18	0
乳			
牛乳	6	12	0
合 計	45	80	0

表3 その他の細菌検査結果

令和7年11～12月

食品区分	検査 検体数	検査 項目数
野菜類・果実及びその加工品		
漬物	3	6
菓子類		
洋生菓子	10	30
焼菓子	2	6
その他の食品		
調味料類	1	2
ふきとり		
ふきとり(器具等)	5	20
合 計	21	64

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

## 食品中のアフラトキシン検査結果（令和7年度）

アフラトキシンはアスペルギルス属等が産生するカビ毒の一種です。アフラトキシンには、アフラトキシンB1をはじめB2、G1、G2、M1などのいくつかの種類が存在することがわかっています。なかでもアフラトキシンB1は天然物でもっとも強力な発がん性物質であることが知られ、食品全般に対して総アフラトキシン（アフラトキシンB1、B2、G1、G2の合算）について10  $\mu\text{g}/\text{kg}$ の規制値が設けられています。また、アフラトキシンM1は、アフラトキシンB1に汚染された飼料を摂食した家畜の乳に含まれることが知られ、乳中のアフラトキシンM1について0.5  $\mu\text{g}/\text{kg}$ の規制値が設けられています。

今回は、令和7年5月及び12月に食品専門監視班が収去した市内流通食品の検査結果を報告します。

令和7年5月にアーモンド、カシューナッツ、クルミ、マカデミアナッツ各1検体の計4検体について総アフラトキシン（アフラトキシンB1、B2、G1、G2の合算）の検査を行いました。

検査の結果、表1に示すとおり全て不検出でした。

また、令和7年12月に牛乳6検体についてアフラトキシンM1の検査を行いました。

検査の結果、表2に示すとおり全て不検出でした。

表1 総アフラトキシンの検査結果

食品の種類	検体数	検出数	結果 $\mu\text{g}/\text{kg}$	規制値 $\mu\text{g}/\text{kg}$
アーモンド	1	0	不検出	10
カシューナッツ	1	0	不検出	10
クルミ	1	0	不検出	10
マカデミアナッツ	1	0	不検出	10
計	4	0	—	—

(検出限界:1  $\mu\text{g}/\text{kg}$ )

表2 アフラトキシンM1の検査結果

食品の種類	検体数	検出数	結果 $\mu\text{g}/\text{kg}$	規制値 $\mu\text{g}/\text{kg}$
牛乳	6	0	不検出	0.5

(検出限界:0.05  $\mu\text{g}/\text{kg}$ )

【 理化学検査研究課 微量汚染物担当 】

# 食品中の動物用医薬品検査結果（令和7年11月～12月）

動物用医薬品は動物における疾病の治療及び予防、並びに発育促進を目的として使用されています。畜水産食品中に残留する動物用医薬品が人の健康に害を及ぼすことのないよう、消費者庁は動物用医薬品について残留基準を設定しています。

当所では、市内流通及びインターネット購入品の畜水産食品について検査を行っています。今回は、食品専門監視班が令和7年11月及び12月に収去及びインターネットで購入した食品の検査結果を報告します。

11月には、さけ目魚介類1検体（サーモントラウト）、すずき目魚類6検体（カンパチ1検体、シマアジ1検体、ハマチ1検体、ブリ1検体及びマダイ2検体）、その他の魚類1検体（ヒラメ）及びエビ1検体（バナメイエビ）の計9検体について検査を行いました。また、12月には、牛乳4検体、鶏卵2検体及びはちみつ2検体の検査を行いました。その結果、表に示すとおりすべて不検出でした。

表 検査項目、検査結果及び検出限界

検査項目	検査結果							検出限界
	魚介類				その他の食品			
	さけ目 (1検体)	すずき目 (6検体)	ヒラメ (1検体)	エビ (1検体)	牛乳 (4検体)	鶏卵 (2検体)	はちみつ (2検体)	
<b>【合成抗菌剤】</b>								
ニトロフラントイン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	—	—	—	0.001
フラゾリドン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	—	—	—	0.001
フラルタドン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	—	—	—	0.001
マラカイトグリーン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	—	—	—	0.002
ロイコマラカイトグリーン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	—	—	—	0.002
エンロフロキサシン(シプロ フロキサシンとの和)	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	—	0.01
オキシリニック酸	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	—	0.01
オフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	—	0.01
オルビフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	—	0.01
オルメトプリム	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	—	0.01
クロビドール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	—	0.01
サラフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	—	0.01
ジフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	—	0.01
スルファキノキサリン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	—	0.01
スルファクロルピリダジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	—	0.01
スルファジアジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	—	0.01
スルファジミジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	—	0.01
スルファジメトキシ	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	—	0.01
スルファセタミド	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	—	0.01
スルファチアゾール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	—	0.01
スルファドキシ	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	—	0.01
スルファピリジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	—	0.01
スルファベンズアミド	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	—	0.01
スルファメキサゾール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	—	0.01
スルファメキシピリダジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	—	0.01
スルファメラジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	—	0.01
スルファモイルダブソン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	—	0.01
スルファモノメトキシ	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	—	0.01
スルファイソゾール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	—	0.01
スルファイソミジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	—	0.01

表(続き) 検査項目、検査結果及び検出限界

検査項目	検査結果							検出限界
	魚介類				その他の食品			
	さけ目 (1検体)	すずき目 (6検体)	ヒラメ (1検体)	エビ (1検体)	牛乳 (4検体)	鶏卵 (2検体)	はちみつ (2検体)	
ダノフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	—	0.01
チアンフェニコール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	—	0.01
トリメトプリム	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	—	0.01
ナイカルバジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	—	0.01
ナリジクス酸	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	—	0.01
ノルフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	—	0.01
ピリメタミン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	—	0.01
ピロミド酸	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	—	0.01
フルメキン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	—	0.01
マルボフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	—	0.01
ミロサマイシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	—	0.01
<b>【抗生物質】</b>								
OTC、CTC及びTCの和 *	—	—	—	—	N.D.	N.D.	—	0.02
オキシテトラサイクリン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	—	—	N.D.	0.02
クロルテトラサイクリン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	—	—	N.D.	0.03
テトラサイクリン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	—	—	N.D.	0.02
クロラムフェニコール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	—	—	N.D.	0.005
<b>【寄生虫用剤】</b>								
レバミゾール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	—	0.01
<b>【殺虫剤】</b>								
クマホス	—	—	—	—	—	—	N.D.	0.01

単位:ppm N.D.:不検出 —:実施せず

\*:オキシテトラサイクリン、クロルテトラサイクリン及びテトラサイクリンの和

【 理化学検査研究課 微量汚染物担当 】

# 衛生研究所ウェブページ情報（令和8年1月）

横浜市衛生研究所ウェブページは、平成10年3月に所独自のウェブサイトとして開設されました。現在は、本市ウェブサイトと統合され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報、薬事情報を提供しています。今回は、当ウェブページにおける令和8年1月の追加・更新記事について報告します。

## 1 追加・更新記事

令和8年1月に追加・更新した主な記事は、2件でした。

掲載月日	内容
1月15日	感染症に気をつけよう(1月号)
1月29日	横浜市インフルエンザ流行情報第4週

## 2 記事紹介

横浜メディカルダッシュボード

<https://iryodashboard.city.yokohama.lg.jp/>

感染症に気をつけよう

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shimin/kiwotukekyou.html>

横浜市インフルエンザ流行情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/rinji/rinji.html>

ソーシャルメディア

[https://www.instagram.com/eiken\\_yokohama\\_official](https://www.instagram.com/eiken_yokohama_official)

【 感染症・疫学情報課 】

# 横浜市感染症発生動向調査報告(令和8年1月)

委員会開催日(2026年1月22日)時点のデータになります。

## 《今月のトピックス》

- デング熱、マラリアなど、輸入感染症の報告がみられます。
- 感染性胃腸炎が例年よりも高い値で推移しています。
- インフルエンザの報告も続いています。
- 梅毒は幅広い年齢層で患者が発生し、妊婦の報告も複数みられます。

◇ 全数把握の対象 <2025年12月22日～2026年1月18日に報告された全数把握疾患>

腸管出血性大腸菌感染症	3件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	9件
E型肝炎	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	2件
デング熱	3件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
マラリア	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	8件
レジオネラ症	6件	水痘(入院例に限る)	1件
アメーバ赤痢	1件	梅毒	28件
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1件	百日咳	34件

1. **腸管出血性大腸菌感染症**:10歳代～60歳代で、O血清群はO26が1件、O不明が2件です。すべて無症状病原体保有者で、いずれも感染経路等は不明です。
2. **E型肝炎**:50歳代の無症状病原体保有者で、感染経路等は不明です。
3. **デング熱**:10歳代～40歳代で、感染経路は蚊からの感染と推定されるのが1件、感染経路等不明の報告が2件です。
4. **マラリア**:50歳代で、病型は熱帯熱マラリアです。感染経路は蚊からの感染です。
5. **レジオネラ症**:50歳代～90歳代で、肺炎型が5件、ポンティアック熱型が1件です。感染経路等は水系感染と推定される報告が4件、感染経路等不明の報告が2件です。
6. **アメーバ赤痢**:50歳代で、病型は腸管アメーバ症です。感染経路は性的接触と推定されています。
7. **カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**:80歳代で、感染経路は以前からの保菌、院内感染と推定されています。
8. **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:10歳未満～90歳代で、血清型はA群が1件、B群が6件、G群が2件です。創傷感染と推定される報告が3件、その他と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が5件です。
9. **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**:20歳代～50歳代で、AIDSが1件、無症状病原体保有者1件です。感染経路は性的接触(同性間)が1件、感染経路等不明の報告が1件です。
10. **侵襲性インフルエンザ菌感染症**:70歳代(ワクチン接種歴不明)で、感染経路はその他と推定されています。
11. **侵襲性肺炎球菌感染症**:10歳未満～90歳代(ワクチン接種歴3回1件、1回1件、無2件、不明4件)で、感染経路等は飛沫・飛沫核感染と推定される報告が2件、その他と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が5件です。
12. **水痘(入院例に限る)**:20歳代(ワクチン接種歴不明)で臨床診断例です。感染経路等は不明です。
13. **梅毒**:20歳代～90歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期4件、早期顕症梅毒Ⅱ期9件、晩期顕症梅毒1件、無症状病原体保有者が14件です。性的接触による感染と推定される報告が23件(異性間15件、同性間3件、詳細不明5件)、感染経路等不明の報告が5件です。
14. **百日咳**:10歳未満～60歳代(ワクチン接種歴4回4件、3回1件、無1件、不明28件)で、家族内感染と推定される報告が5件、周囲の流行と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が28件です。

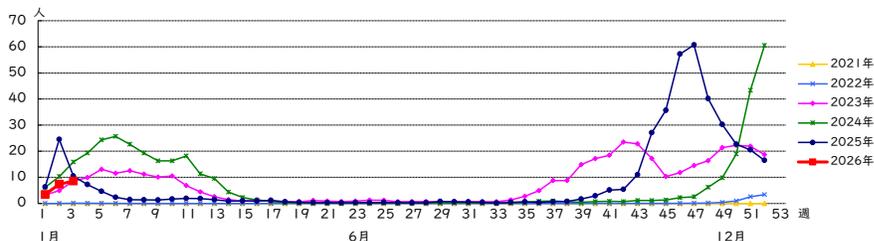
◇ 定点把握の対象

※ 2025年第14週(3月31日～4月6日)以降、小児科定点は94→51、内科定点は59→39医療機関に変更されました。

報告週対応表	
2025年第52週	12月22日～12月28日
2026年第1週	12月29日～1月4日
第2週	1月5日～1月11日
第3週	1月12日～1月18日

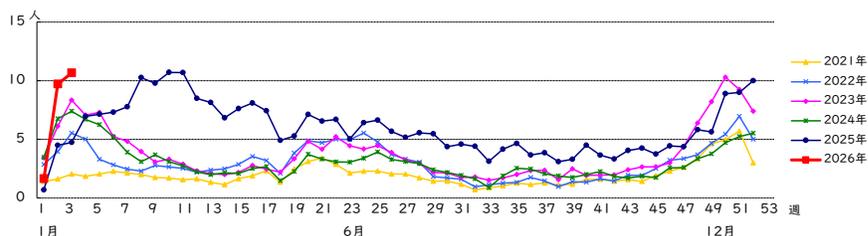
1 インフルエンザ

2025年第37週(9月8日～9月14日)以降増加が続き、第43週(10月20日～10月26日、定点あたり10.95)に流行注意報発令基準(10.00)を、第45週に35.63で、流行警報発令基準(30.00)を超えました。その後増加が続き、第47週に60.78でピークを迎えました。以降減少傾向が続き、2026年第3週は8.53です。



2 感染性胃腸炎

2025年第46週(11月10日～11月16日)以降増加傾向が続き、2026年第3週は10.67です。



3 性感染症(2025年12月)

性器クラミジア感染症	男性:30件	女性:18件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:22件	女性:10件
尖圭コンジローマ	男性:17件	女性:0件	淋菌感染症	男性:10件	女性:2件

4 基幹定点週報

	第52週	第1週	第2週	第3週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.25	0.00	0.00	0.25
マイコプラズマ肺炎	0.50	0.00	0.00	0.75
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.25	0.25

5 基幹定点月報(2025年12月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	12件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科・ARI(急性呼吸器感染症)定点:5か所、ARI定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計14か所を設定しています。

検体採取は、小児科・ARI定点とARI定点で毎週実施しています。

眼科と基幹(病院)定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

2025年第52週～2026年第3週に病原体定点から搬入された検体は、ARI(急性呼吸器感染症)定点72件、小児科定点1件、定点医療機関外1件でした。

2月3日現在、表に示した各種ウイルスの分離28株と遺伝子28件が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(2025年第52週～2026年第3週)

主な臨床症状等 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	発 熱
	インフルエンザウイルス AH3	12 1	4 -
インフルエンザウイルス A (亜型未同定)	- 1		
インフルエンザウイルス B (B/GTリア系統)	1 -		- 1
新型コロナウイルス (SARS-CoV-2)	1 5		- 2
ライノウイルス	- 8		- 3
RS ウイルス	- 3		- 1
ヒトメタニューモウイルス	- 1		- 1
アデノウイルス 2型	1 -		- 1
合 計	15 19	4 -	9 9

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

2025年第52週～2026年第3週の「菌株同定」について保健所からの検査依頼は、腸管出血性大腸菌感染症6件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症10件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症1件、侵襲性インフルエンザ菌感染症1件、侵襲性肺炎球菌感染症1件でした。

基幹定点からの検査依頼はサルモネラ症1件でした。

「分離同定」の検査依頼は保健所からレジオネラ症4件、レプトスピラ症3件でした。

病原体定点医療機関からの検査依頼は「小児科定点」から溶血性レンサ球菌咽頭炎4件、「ARI定点」から2件でした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2025年第52週～2026年第3週)

菌株同定	項目	検体数	血清型等	
保健所	腸管出血性大腸菌感染症	6	O157:H7	VT1 VT2 (1)
			O157:H-	VT1 VT2 (1)
			O26:H11	VT1 (1)
			O103:H+	VT1 (1)
			OUT:H+	VT1 VT2 (1)
			OUT:H+	VT2 (1)
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	10	A群溶血性レンサ球菌	T型別不能 (2)
		B群溶血性レンサ球菌	I a型 (1)	
		B群溶血性レンサ球菌	V型 (3)	
		B群溶血性レンサ球菌	型別不能 (2)	
		G群溶血性レンサ球菌	(2)	
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1	<i>Enterobacter cloacae</i> complex (1)	
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1	<i>Haemophilus influenzae</i> (1)	
	侵襲性肺炎球菌感染症	1	<i>Streptococcus pneumoniae</i> (1)	
基幹定点	サルモネラ症	1	<i>Salmonella</i> Singapore (1)	
分離同定	項目	検体数	材料	同定、血清型
保健所	レジオネラ症	4	喀痰	<i>Legionella pneumophila</i> SG1 (1) レジオネラ属菌 培養陰性 (3)
	レプトスピラ症	3	血液2 尿1	レプトスピラ遺伝子 陰性 (3)
小児科サーベイランス	材料	診断名	検体数	同定、血清型等
小児科定点	咽頭ぬぐい液	溶血性レンサ球菌咽頭炎	4	A群溶血性レンサ球菌 T4 (1) A群溶血性レンサ球菌 TB3264 (1) A群溶血性レンサ球菌 T型別不能 (2)
ARIサーベイランス	材料	診断名	検体数	同定、血清型等
ARI定点	咽頭ぬぐい液	ARI	2	百日咳菌遺伝子 陰性 肺炎マイコプラズマ遺伝子 陰性 溶血性レンサ球菌 培養 陰性 百日咳菌培養 陰性 (2)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】